

平成29年度第3回太田地域協議会会議録

平成29年9月14日

太田地域協議会

平成29年度第3回太田地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■支所長あいさつ	2
■会議録署名委員の指名	3
■報告	3
(1) 立地適正化計画について	3
(2) 太田地域枠予算活用事業実績報告	4
■協議	4
(1) 平成29年度地域枠予算執行事業について	4
(2) 太田地域協議会の開催時間に関するアンケート結果について	13
■その他	13
■閉会	18
■署名	19

平成29年度 第3回太田地域協議会 会議録

■日 時：平成29年9月14日（木） 午前10時00分

■会 場：太田支所 2階 会議室

■出席委員：10名

水谷 英明、伊藤 勝良、小柳 真理子、川原 猪利、
根本 昇、水谷 仁光、高橋 睦子、長澤 仁十郎、
鈴木 賢一、倉田 吹紀子

■欠席委員：7名

清水川 絵美、高橋 洋、富木 勇、小松 江里子、
佐藤 田鶴子、小松 泉、倉田 満法

■出席職員：10名

（建設部）

富樫 真司（都市管理課参事）

高橋 宗秀（都市管理課技師）

（太田支所）

煤賀 義博（太田支所長）

谷口 藤美（市民サービス課長）

本多 圭子（市民サービス課参事）

黒澤 伸朗（農林建設課参事）

藤澤 寿史（太田公民館長）

倉田 康弘（東部新規就農者研修施設主席主査）

高橋 正人（地域活性化推進室副主幹）

菅原 直久（地域活性化推進室副主幹）

■次 第：

1 開 会

2 会長あいさつ

3 支所長あいさつ

4 会議録署名委員の指名

5 報 告

（1）立地適正化計画について

（2）太田地域枠予算活用事業実績報告

6 協 議

（1）平成29年度地域枠予算執行事業について

（2）太田地域協議会の開催時間に関するアンケート結果について

7 そ の 他

8 閉 会

(午前10時00分 開会)

○煤賀太田支所長（以下「支所長」と表記）

定刻となりましたので、地域協議会を始めさせていただきたいと思えます。会議を始めます前に、本日の協議会は委員の2分の1以上が出席しておりますので、本協議会は成立いたしますことをご報告いたします。

なお、会議録作成のため発言の際にはマイクをご使用くださるようお願いいたします。会議の進行につきましては、規定により水谷会長にお願いします。

○水谷太田地域協議会会長（以下「会長」と表記）

皆さん、どうもお疲れさまです。いつもながらお忙しい中会議の方に出席くださって、どうもありがとうございます。田んぼの方もそろそろコンバインとか入っているのも見るようになりまして、だいぶ忙しくなってきたと思えます。また、今年は大雨の水害とかこの前の地震とかで被害に遭った方もいらっしゃるでしょうし、行政の皆さんもかなりそういう臨時のことで忙しくなったりして大変だったと思えます。また、この前はねりんピックも盛大に終わりました、開会式のときだけ見たんですけども市役所の人たちが皆さん出ていらっしゃるしまして、休みの日もなく働いていらっしゃるんだなと思って感心、感謝いたしております。今日も協議いろいろありますけれども皆さんの方からいろんな意見を出していただきますようによろしくお願いします。

それでは、ただいまから平成29年度第3回太田地域協議会を開会いたします。
煤賀支所長さんからご挨拶をお願いいたします。

○支所長

あらためまして、本当に今日はお忙しいところご苦労さまです。今会長の挨拶にもありましたとおり、7月と8月に大雨が降ったということは皆さまも新聞報道等でご存知のことと思えます。7月22日、23日の大雨については24時間降雨量が協和の峰吉川地区で364ミリと観測史上最大の大雨が降ったという状況です。全半壊合わせて、床上、床下浸水合わせまして1,521棟の大仙市内の被害がありました。また、道路の決壊、路肩の崩落等は322カ所に及びまして、河川の護岸が決壊したという所も140カ所あります。土木関係の被害総額は14億7千万という多大な被害に上っております。また、農地の冠水面積も2,366ヘクタールと、いわば太田町の農地が全部水没したといったような状況になっております。農地の被害額は林道等を合わせまして26億円と、これも多大な被害に上っております。7月の豪雨については幸いなことに太田地域は被害はありませんでした。また、8月24日にまた大雨が降りまして、それは大台地区観測所で24時

間雨量が211ミリと大仙市内でも一番多かったという状況です。7月は被害を免れたんですけれども、8月は真木の林道ですけれども27メートルにわたって路肩が決壊したといった被害を受けております。また、9月8日には地震がありまして、太田支所では大きな被害はなかったんですけれども5強という大きな地震がありました。これは50年に一度の災害とかという話でありますけれども、毎年のように来ておりますので注意のしようがありませんけれども、なんとか気を付けていただきたいと思います。

話は変わりますけれども、前回チャイムの修繕の要望がありました。なかなか修理が遅くなってしまったんですけれども、と言うのは昭和の時代に作った建物でして、設備がもうないということで代替部品を探すのに手こずってしまっております。やっと来週部品が、代替部品ですけれども入ってくる見通しがつきましたので来週、再来週あたりには修繕が完了する予定となっております。

今日の案件につきましては、報告が1件、協議が5件ほどありますので、皆様のご審議をよろしく申し上げます。以上で終わります。

○会長

ありがとうございました。

それでは、次に次第4の「会議録署名委員の指名」をさせていただきます。会議録署名委員は、小柳真理子委員、高橋睦子委員にお願いいたします。

それでは、次第5の「報告」に入ります。はじめに、立地適正化計画について当局から説明をお願いいたします。

○当局（富樫都市管理課参事）

【立地適正化計画について説明】

市では平成21年に概ね20年後の将来像とまちづくりの指針を定めた「大仙市都市計画マスタープラン」を策定し、まちづくりを進めてきた。しかし、急速に進む少子高齢化や人口減少などによって市を取り巻く環境は大きく変化している。このような変化に対応したまちづくりを行うために、現在の都市の規模を見直し、都市機能や市民の居住をコンパクトに誘導するとともに、地域に設ける拠点との公共交通機関による連絡性を確保する都市づくりへと転換していくために、「大仙市立地適正化計画」を策定するもの。

○会長

ありがとうございました。ただいま立地適正化計画について当局から説明がありました。皆さんからご意見・ご質問などがございましたらお願いします。川原委員、何かございませんか。

○川原猪利委員（以下「川原委員」と表記）

具体的な中身が決まりましたら、また是非ご説明いただきたいと思います。

○会長

他によろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

質問がないようですので、本件についてはただいまの説明のとおりといたします。

ここで都市管理課の職員の皆さんは退席されます。本日はどうもありがとうございます。

【都市管理課職員 退席】

○会長

それでは、続きまして(2)太田地域枠予算活用事業実績報告及び次第6の平成29年度地域枠予算執行事業について、一括して事務局から説明をお願いいたします。

○事務局(地域活性化推進室)

【太田地域枠予算活用事業実績報告及び平成29年度地域枠予算執行事業について説明】

・実施類型Ⅰ型

1. 「私の昭和」手記集発行事業

事業目的：現在、市民の多くは昭和の戦後生まれだが、平成も29年となり「昭和」の時代が遠くになりつつある。やがて昭和の記憶が風化してしまうおそれがあることから、戦後の平和で豊かな昭和時代の体験を記録した手記集を発行し、後世へ語り継いでいくことを目的とするもの。

申請団体：太田支所市民サービス課

申請額：365,000円(印刷製本費、郵便料)

・実施類型Ⅱ型

1. 太田地域文化講演会開催支援事業

事業目的：自分たちが住む地域を見つめ直す契機とするとともに、地域活性化のための一助とすることを目的とした、著名人による講演会の開催を支援するもの。

申請団体：太田地域自治組織連絡協議会

申請額：125,000円(報償費、消耗品費)

2. 太田地域芸術発表会開催支援事業

事業目的：太田地域住民の日頃の文化活動の成果を発表、鑑賞する機会を提供する

ことにより、芸術文化の振興を図り、心豊かな地域づくりを推進することを目的に開催する太田地域芸術発表会の開催を支援するもの。

申請団体：大仙市芸術文化協会太田支部

申請額：150,000円（報償費、印刷製本費、消耗品費）

・実施類型Ⅲ型

1. ふるさと太田会創立25周年記念歓迎事業費補助金

事業目的：首都圏「ふるさと太田会」は創立25周年を迎え、毎年開催している総会を今年は太田町で開催することとなった。応援する会としても、郷土料理でのおもてなし、偉人の生家や記念碑巡り、伝統芸能等の披露など様々なイベントを企画し、盛大に歓迎することとしており、これらの事業に対する補助を行うもの。

申請団体：首都圏「ふるさと太田会」を応援する会

申請額：125,000円（補助金）

2. 大町地区街路灯設置事業費補助金

事業目的：大町地区内に設置してある街路灯は、支所周辺道路に面する居住者等をもって構成する「大町地区街路灯管理組合」により維持管理されている。通学路にもなっているが、一部街路灯の設置されていない場所があることから、明るく安全な住みよいまちづくりのため街路灯設置に係る費用の一部を補助するもの。

申請団体：大町地区街路灯管理組合

申請額：171,000円（補助金）

○谷口市民サービス課長（以下「谷口課長」と表記）

すみません、補足説明というか「私の昭和手記集発行事業」について、ちょっと皆さまにお願い方々お話しさせていただきたいと思います。

皆さまご承知のとおり現在の天皇陛下、予定では来年12月末若しくは再来年3月末に退位される予定です。となれば平成から年号が変わります。ということで、年号が変われば明治、大正、昭和、平成、何とかとなりますけれども、私どもほぼここにいる人たちは昭和の生まれだと思いますので、年号が変わればもう若い人たちにとっては明治の人のような感覚になる時期が来るかと思います。ちょっと私今皆さまにお渡ししましたけれども、平成5年当時「広報おおた」に、ちょっと私当時広報係をやっていたんですけども、掲載したもののコピーです。年齢とか書いていますけれども、平成5年当時ですので24年前の年齢です。例えば藤井ヒテさんであればこの当時100歳でしたけれども、今もし生きているとすれば124歳くらいになっているんですけども。ということで、ちょっと明治時代を記録に残したいなということで私毎月取材に伺いまして、当時の明治の人たちの生きてきたような過程を広報に掲載したことがありました。ということで、明治の記録

は若干こうやって残っております。大正時代の方々については、例えば昭和元年生まれの方でもすでに92歳ですのでほぼ大正時代の方々は、まだ何人かいらっしゃいますけれども記憶がかなりあやしいと思いますので、大正時代の記録というのはちょっと難しいのかなど。となれば、少なくとも昭和時代にこうして皆さまが生きてきた証を何かの形で残したいなということで「私の昭和」ということで考えました。できれば100人くらいの人たちから作文を寄せていただきたいというふうに思っています。まず私の方でもピンポイント的にいろんな人たちに声をかけて、例えば前の地域協議会の会長さんであった高橋清一郎さん、あの方はだいぶ前にNHKのプロジェクトXかな、今は仕事の流儀か何かに番組名が変わっていますが、あの方は若いときにアフリカへ地図を作る作業の一員として行っています。そういったことの思い出というか当時のことをちょっとまとめて下さいとか、例えばここにいらっしゃいます根本さんであればあそこの古館の一等地において、多分長年において百貨店ということで営んでこられたと思いますので、昭和時代の古館地域の辺りのこととかもしお願いできれば書いていただきたいなと思いますし、例えば水谷さんであれば長年東北電力にお勤めになって、多分いろんな地域に転勤して歩いた方なのかなと思いますけれども、そうやって自分で勤めてきた気概のようなことを書いていただきたいというようなことをちょっと思っています。あと例えば、古い話ですけども青年会活動が盛んだったあたり、それから例えば公民館で結婚式をやっていた時代に実際に結婚された方とか、そういったことで何人かには直接声をかけて書いていただきたいというふうに思っています。そういったことで皆さま方もどうか自分の昭和時代のいろんなこと、学校生活でもいいですし家庭のこと、地域のこと、いろんなことをちょっとまとめて是非応募していただきたいと思っています。実際学校の文集のような形ですとけっこう印刷費が高額になりました。そんなにお金もかけてもらえないと思いますので、タイプとしては皆さまにだいぶ前にお渡ししていますけれども、これが約34ページです。これの倍くらいの厚さで約50何人分入ります。できればもし100人くらい集まれば第一集として今年の予算で、第二集として来年度の予算で印刷できればと思っています。これ週刊誌綴じのようなタイプになっているんですよ、簡単な背表紙がない製本になっています。これが一番安い、経費がかからない綴じ方で、しかも見やすくなっていますので出来たイメージとしてはこれの倍くらいの厚みがあるような形にしたいと思っています。あと加えて付録的にこういうシリーズを、過去のデータですけども明治時代のこと、それから鈴木孝治さんに聞き書きしたものも、広報に掲載したものがああります。確か15回くらい載せています、農地の土壌調査をしたこととか診療所を作ったあたりだとか、あと母子健康センターを作ったとか、そういったことをシリーズに、それはもうまさしく昭和時代のことですけどもそういったこともちょっと広報から集約をかけて適宜載せたいなというふうに思っています。そういったことで、ちょっとこれ私、今年後半私が力を入れて取り組みたいと思いますので、どうか皆さま方も是非応募していただきたいと思っています。以上です。

○会長

ただいま事務局の方から太田地域枠予算活用事業実績報告と29年度の地域枠予算執行事業について説明がございました。

それでは、先に地域枠予算活用事業の実績報告について、皆さんからご意見とかございましたらよろしく願います。はい、倉田委員。

○倉田吹紀子委員（以下「倉田委員」と表記）

ここに記載されている、資料としては挙げられておりませんが秋田おはら節、私初体験しました、初体験という表現はおかしいですけれども。それで、先ほどからこれから未来に向けての大仙市のお話があり、そして先日この資料が届けられたときに人口が減少するという、私たち巷でいつもそれは話題になるんですけれども、数字で示されたことで本当にショックでした。そういう意味ではこれからどうなっていくんだろうなという、みんながそう思っているんだけれども不安だけではなくて何か明るいものを、と考えているときにおはらと出会いました。そのおはら節は、私は小さいときに民謡の中で育ってききましたけれども唄う人だけのイベントと私は思っていました。ところが、この会でも応援して下さる講習会がありました。おはら節の大会の前に、7月にこちらの予算をいただいて講習会、企画をいただいて講習会がありました。そのときに「唄う人がうまくなるための会かな」みたいな感じで参加させていただいたんですけれども、そこでおはら節を聴いて、聴く人もこんな気持ちでこの歌を聴いたら本当に心が豊かになっていくだろうなという、私本当に初体験でした。そして大会の日も朝から夕方まで「鹿さん鹿さんなぜ泣くの」、一日何とやって過ごそうかなとずっと思っていた自分が、全く意識が変わったのはその講習会に出たからです。その会場に行ったら本当に静かな会場だったんですけども、ゴザの上に「俺は唄は唄えないけれども聴く耳は上手になった」、多分その講習会に出た私の気持ちと同じだったろうと思ったけれども、大会に出る人はいろんな大会に出てらっしゃるので腰が据わっているというか、私がいろんなことに挑戦してくるドキドキ感を待ち合いの場かと思ったら、そうではないことも知りました。だけれども、ファンの人たちはさっきのネットワークを使って中央に出向く、これからの未来像を話し合う場、さっきの場面ですけれども、太田の中でももしかして広く知られていない、私知らないことが不勉強だったんですけれどもそういう場に「ああ楽しみだ」と言って7時半前から座っていて、そういう機会を作ってくださっている、もしかしたら全国大会で当日は滋賀県からとか遠くから来た方もおられましたけれども、そういう大きな会にもそこ辺りの爺さん婆さんが行ける、そういう場を私たちこの地域協議会でたくさんの企画を、もしかしたら広くたくさんの全ての人には通じないかも知れないけれども、中央部で開いていただけるよりももしかしたら押し車を引いてプラザに来たら何かがあるだろうみたいな企画は是非この先、もしかしてどんどん予算が難しくなっていく中でも太田だからできることは本当に大切にさせていただいて、そしてさっき建設部の方の九州の方がねりんピックで来た話、私たち太田はやっぱりこの田園とお花とか、来たときに本当に景色が変わるというのは住んでいる私たちは分からないんだけれども聞く言葉はやっぱり財産なので、やっぱりそこに細やかな予算とかこういう協議会で皆さんが会を作ってくださっていることも私今年初体

験です。でもそういうことが、私は年齢的にいけば中堅なんだけれども是非是非広く、となりの爺さん婆さんにこういうことをしているよということは私の口でお話しできるので、そういう機会を是非是非絶やさず、もちろんそうだと思いますけれども何か心強かった、ここに来て。そしておはら節を通してステージに立たない、裾から見ている人にもちゃんとその会に参加できる会が太田はとても大事にしているということを私は今年実感したので、是非続けてそこは大事に取り上げていってもらえればうれしいなと思います。すみません、思ったことをお話しさせていただきました。

○会長

ありがとうございました。そういう視点で参加できるというのも何かちょっと気づきませんでしたね。

○倉田委員

お爺ちゃんこの日だけは、親との関係は無いけれども民謡を通してお爺さんと、机は離れていたんですけども同じ時間を共有できる方とか、それから講師の方の話を聞きたいというのでわざわざお見えになった方とか、私みたいに好奇心だけで行った方とか、唄う人はもちろん上手な声の発声練習、一人ひとりに合った教えになんか人生を感じたというか。私あの方に、きっとどこかで多分講習会を開いてらっしゃると思うんだけど、おはら節に限らずお爺ちゃんお婆ちゃんたち、この昭和の時代、すごく朝一番、昭和を偲ぶというかこういう時代に自分たちが掛け合ったなという時代がああの画面から一日を迎えることを今聞くと、すごく周りに関わっている、佐々木貞勝先生ではないんだけど太田にそういう人がいっぱいおられて、それからここにいらっしゃる方もすごく魅力あるようなお話をたくさんされるので、多分さつき課長が言った昭和の手記もやっぱり災害とかで記録は大事だ、でも大変なときに見るのではなくてこんな時代に自分がちゃんと関わる、生きいきしていた時代をちゃんとまとめていただくこともうれしいなと思いましたし、そういうのが太田は心を育てる町なのかなとすごく思いました。本当に私、講習会は是非皆さん、ある意味本当に目から鱗でしたね。全く予想外の会でした。是非皆さんもお出かけになったらいかがでしょうか。

○会長

次回の講習会の広報のときには今の倉田委員のコメントを載せていただければ。

○倉田委員

それは陰の方でゴチャゴチャになるので。もう一度、11月は大会を終えての会なのでまた充実した内容だと思うんだけど、1回目は広く誰でも参加できる会なのでもしかしたらそこら辺のお爺ちゃんお婆ちゃんにも行ってみたらと誘えばもしかすれば。本当にあの方、講師の先生が、練習なんだけれども1回ごとに本当に感動するんですよ。他の方たちはとにかく唄が上手になりたい人が唄うんだけど、講師が唄うと情景が映るの、

何回唄っても。なんでこの唄に私こんなに涙するのか分からなかったんだけど、多分昭和の影とか明治とか、自分の育ってきた情景がちゃんと映るから。だから多分お爺ちゃんお婆ちゃんたちもすごく喜ぶと思う。

○会長

他に今の実績報告についてご意見のある方いらっしゃいませんか。

(「なし」の声あり)

○会長

ないようですので、次に平成29年度の地域枠予算執行事業について、「私の昭和」手記集発行事業、太田地域文化講演会開催支援事業、太田地域芸術発表会開催支援事業、ふるさと太田会創立25周年記念歓迎事業費補助金、大町地区街路灯設置事業費補助金についてご意見・ご質問がございましたらお願いします。はい、水谷委員。

○水谷仁光委員（以下「水谷委員」と表記）

私の昭和手記ということでお聞きしたいと思います。発想というか、非常に素晴らしいことだなというふうに思いました。それで質問なんですけれども、その中で例えば皆さんそれぞれ手記ですからそのまま載ると思うんですけれども、それをイメージするために例えばふるさと太田会が今年で25年になるんだけれども、それは何年の年からというような年表みたいなものがあれば、なるほどこの人はこの時期だったとか、例えば何年の年か分かりませんが太田中学校が全県で野球が一位になったとか、太田に関わるものだけでけっこうですから、もしアドリブ的に入れるとすれば世の中の流行歌はこういうのが入っているとか、というのがあればそれぞれの手記の情景というんですか、背景というんですか、出てくるのかなというような感じがしまして。そういうのをやるというのは非常に紐解き、難しいと思うんです。ですから、やるとすればこれまた100年くらい前のやつから開かなきゃいけないのは大変なことなんで如何なものかなと思うんですが、どういふものになるのかなと思ひまして聞きました。

○谷口課長

今の水谷委員のお話にお答えしたいと思います。今ちょっと下の方から持ってまいりますけれども、実は昭和30年に横沢村と長信田村が合併しております。で、昭和30年に合併してそれから40周年のとき、だから平成3年になるのかな、そのときにそれこそ私広報係をやっておりましたけれども、合併40周年記念号ということで40年間、昭和30年から平成3年までまとめたちょっとした本を作っております。それを見ますとこの年に何があった、この年に何があったということでちょっと分かるような内容になっておりますので。実は私自分で手掛けておりますので大体頭に入っているというか、例えば年数までは分かりませんが太田中学校が初めて野球の地区大会で優勝して全県に行っ

たのは、今持って来れば分かりますけれども何年とかというふうなことでちょっとまとめたものがあります。そのときのキャプテンが鈴木弘之さんであります。そういったことを鈴木弘之さんに、あなた書いてねというようなことでまずお願いしたいなというふうに思っていますし、そういったことで今見本を持ってまいりますけれども、そういったことをもちろん何か見出し的に載せたいなというふうに思っています。今ちょっとサンプルを持ってきます。

○水谷委員

ちょっと思ったのは、いろんな企業でも行政でもそうなんですけれども、節目節目にそういうまとめというのは必ず存在すると思います、例えば30周年だとか。村政でも町政でもいいんですけれども、必ず何十周年記念とかという年号別に何があったというのは必ず書籍として残しておかないと後世に残らないものになるから、必ず会社でも50周年とか30周年とか出すんです。それから行政でもあると思いますので、そういうのを全部載せるということではなくて、本当にこれは面白そうだなという、あとから自分たちがもうちょっと年をとってから見ると思い出すというのがあればよろしいと思いますので、本当に詳しいのは大仙市の方にお任せして、こちらのローカル的な部分の、これだったらいいなというのをピックアップしてもらえば楽しいのかなというふうに思いました。以上です。

○谷口課長

合併して私ちょっと感じたことなんですけれども、実は太田地域が一番そういう書き物というか、公民館の方のふるさとシリーズだとか、もちろん合併直後に出しました太田町史、こんなに厚い太田町史だとか、一番そういう書いたものとか記録したもの、印刷したものとして残っているなというふうに思います。他の地域でももちろん公民館なんか若干出しているようなんですけれども、太田ほど詳しく、しかもいろんな分野にわたって残しているところはないように感じます。多分太田が一番、もちろん大曲なんかほとんど無いような感じですか。あらためて今まで行政の資料としていろんなものが残っていますけれども、私は地域の人たちが生きてきたということの観点から皆さんに作文を書いていただきたいなということで思っておりますので、どうか皆さま方よろしくをお願いします。

○会長

他にご意見とかございましたら。はい、伊藤委員をお願いします。

○伊藤勝良委員

今の手記に関してになりますけれども、印刷物での配布ということで無償ということなんですけれども、例えばPDFで電子データとして、例えばホームページとかで自由にダウンロードできるというふうになれば申請しなくても見たいときにすぐ見れるようなことができると思いますし、多分白黒の印刷になるかと思いますがそういう電子データ

だとカラー写真ということもできると思いますので、そういうこともちょっと考えてもらえればいいかなというふうに思います。また、先ほどもちょっと出ましたけれども、過去にやったいろいろなそういう資料等あると思いますけれども、それを電子化するというのはなかなか大変な作業だと思いますけれども、そういうのも今後電子化とかしていったらえれば、たまたま何かの拍子にそういうのがあるという話を聞いたときに見に行けるきっかけになると思いますので、そういうところをちょっと検討願いたいと思います。

○支所長

手記は100人から寄稿してもらおうということですので、結構なページ数になるかと思っていますけれども、併せてホームページなりで公表できるかどうかを検討していきたいと思っています。

○谷口課長

これは平成7年の3月に出したものです、全戸配布しました、当時。おそらく皆さま方のご家庭のどこかにあるかと思います。例えばこの中で昭和45年、太田中学校の野球部が初めて全県大会に行ったときです。当時福原市郎先生が校長先生で地区大会で優勝したということのパレードの写真です。そのときのキャプテンの鈴木弘之さんからこういったことで思い出話とか書いてもらっていますし、例えばこちら辺にはこの年の国の動き、あとこちらの方には秋田県の動き、それから選挙があったときは選挙の結果だとか、当時の町の予算だとかということで昭和30年から平成2年までまとめたものを、私当時たまたま担当していたものですから出しています、皆さん見覚えあるかどうか分かりませんが。このような形で例えばこれであれば当時の太田町の消防団、小型ポンプ操法の部で全県優勝して全国大会に出ています。そのときは駒場の方々です、今はそのときの選手が多分80を過ぎているのかな、そういった方々の写真だとか団員の思い出とかで書いたものがあります。これを見て、例えばこの年にこういう人がいたなということで直接手紙を出してやって、何とかこういった内容で書いてくださいというようなことをお願いしたいなと思っています。あとその他に皆さま方からいろんなことを書いていただければということで、100人となれば実はこの予算ですと1号と2号と作らなければなりませんので、集まり次第ですけれども1冊に収まるとすればそれで終わりです。もしたくさん集まって2冊目を作るとなれば何とか来年度の予算で、来年度の第1回の地域協議会の方で承認いただいて2冊目とかということで皆さま方からできればご承認いただきたいと思っています。ちょっと集まり具合を見なければ何とも言えませんので、今のところ今年度の予算で1冊目を作りたいなと。で、その付録としてここに示した、たまたま3人分載っていますけれども全部で十何人かあります。それから鈴木孝治さんが昭和30年に、その当時の村長ですけれどもその4年前に長信田の村長でしたのでまさしく昭和時代の太田の行政を担ってきた方です。その記録もありますので、そういったものを集約かけてこの中に収めたいと考えています。そういったことでよろしく願います。

○会長

水谷委員、よろしいですか。他にございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

質問がないようですので、これから事業についてお諮りしていきたいと思います。

はじめに、「私の昭和」手記集発行业業」について、地域枠予算事業として承認してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ご異議がないようですので、地域枠予算事業として承認いただいたものとします。

次に、「太田地域文化講演会開催支援事業」について、地域枠予算事業として承認してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ご異議がないようですので、地域枠予算事業として承認いただいたものとします。

次に、「太田地域芸術発表会開催支援事業」について、地域枠予算事業として承認してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

地域枠予算事業として承認いただいたものとします。

次に、「ふるさと太田会創立25周年記念歓迎事業費補助金」について、地域枠予算事業として承認してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ご異議がないようですので、地域枠予算事業として承認いただいたものとします。

最後に、「大町地区街路灯設置事業費補助金」について、地域枠予算事業として承認してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ご異議がないようですので、地域枠予算事業として承認いただいたものとします。

以上で地域枠予算執行事業の協議を終わります。

次に、(2)の「太田地域協議会の開催時間に関するアンケート結果」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（地域活性化推進室）

【太田地域協議会の開催時間に関するアンケート結果について説明】

太田地域協議会の開催時間については、これまで特段の取り決めはなかったが、平成29年度から平成31年度までの3年間の任期で第4期地域協議会委員が選任されたことを受け、協議会の開催時間についての委員の考えを伺うアンケートを行っており、その結果を報告するもの。

○会長

ただいま、「太田地域協議会の開催時間に関するアンケート結果」について、事務局から説明がありました。

平日午前10時からというのが一番多かったということでしたが、この結果について、この時間について皆さんからご意見などございましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○会長

ないようですので、このアンケートの結果に沿って今後この時間に開催していきたいと思えますけれども、必ずこの時間でなければ、ずっとということではないので、今後委員の皆さんからご意見とかあったり、都合とかでいろいろ変わると思えますので、そのときは何なりと意見していただければ、その都度協議会の方で話し合っって一番いいように決めていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

以上で本日議題となりました案件の協議は全て終了いたしました。

次に、次第7の「その他」に入りますが、委員の皆さんから何かありましたらお願いいたします。何か地域のこととかそういうのでも。はい、水谷委員お願いします。

○水谷委員

この前災害のときに大仙市太田町に避難勧告が出たんだけど、ああいうのはテレビでしか分からなかったんだけど、例えばその地域に回って周知したのですか。テレビでしか分からなくて、皆さんどう思いましたか。サイレンが鳴ったわけでもないし、ス

ピーカーで聞こえてくるわけでもないし、ただテレビだけがどんどん大仙市太田町と出てくるものだから、困ったというわけではないけれども逃げるときにどこに逃げたらいいかわからないし。逃げる場所は決まっているからそれは分かっているんですけども、どういふ周知の仕方があるのかなというのが一つありました。ですから、いつか何かあったときにどういふふうにするのか聞いてみたかったので質問してみました。以上です。

○谷口課長

避難勧告についてですけれども、今回は真木集落それから惣行で、なぜかと言えば土砂災害警報が秋田県に出たということで、それに基づいて避難勧告と。それ以上になれば避難指示というふうになるんですけども、基本的に自主防災組織を通して、そして自主防災組織の連絡網を通してその地域の全世帯には連絡は行っております。他の方の地域というふうには、地域限定の関係で秋田県大仙市太田町真木と惣行というふうに出たと思えますけれども、そういったことで自主防災組織を通してそのエリアの方々には全て連絡は行っております。真木であれば実際5世帯十数人、惣行であれば31世帯70何人かになっています。一応私どもの方でもあとで皆さんに連絡が行ったかということで聞いたら全世帯まで連絡は行っております。それ以外の地域については勧告・指示等出ておりませんので、あえてこちらの方ではお知らせはしておりません。これが例えば太田全域となれば自主防災組織の代表者の方々に避難勧告を出しましたということの他に、もしかすれば車で回って歩くということにもなるかと思えますけれども、今回に限ってはまずそういった形で連絡は漏れなくしております。実際真木の方々、職員が行ってもちょっと怖かったということで避難勧告が出ていますと、避難する先は敬愛館ですということだったんですけども、どこの家も俺の家は大丈夫だと、行かなくてもいいということで、どこの世帯も固辞されたような状況です。惣行の方については実は31世帯ですけれども惣行も結構点在しています。実際危険性の高い家というのはある程度限られてはおります、何軒か。だけれども、まず市としてはその集落全部に避難勧告ということになっていますので、現に危険を感じた2世帯6人の方は一旦敬愛館の方へ避難しています。それが夜の7時頃。ただし、10時頃ここに泊まるまでもないということで自主的に退去されました。別に私どもの方で帰ってくださいと言ったわけではなくて、朝までいて大丈夫ですよと、毛布くらいしかないんですけどもということで。職員も当然4人付いておりましたけれども、まず雨が落ち着いたから帰るということで帰られております。ただし職員は、誰がいつ来るかわからないような状況でしたので、翌日の8時半までは敬愛館の方に常に残っております、というような状況です。実際私どもの方で避難所を立ち上げて職員を張り付けたのは、私ここに来て4年目ですけれども初めてでした。現に避難者もおりましたので、魁新聞の方に大きく載っております。ずいぶん他の方から「お前の方の避難所は立派で綺麗な所だな」と言われました。以上です。

○会長

他に。川原委員、お願いします。

○川原委員

中里温泉の営業形態についての変更等、もし情報があれば教えてください。

○支所長

広報のお知らせ版にもちょっと書いてありましたけれども、今中里温泉の新館の方の浴槽、サウナ付きの浴槽ですけれども、10月1日から土曜・日曜・祭日と毎月26日、風呂の日のみの、その日だけの営業にするということで検討しております。というのは、なかなか中里温泉の経営が厳しいものがありまして、経費を節減するといったことで考えております。中里温泉というのは生活リゾート株式会社ということで第三セクターの運営ですけれども、売り上げがかなり厳しいということで皆さまからの要望、サウナを継続してほしいという要望もいただいておりますけれども、経費を節減するという意味からちょっと営業日数を削減させていただいたということです。というのは、新館の方、サウナ付きの浴槽を運営しますと毎日5万円くらい燃料費、電気料がかかるそうです。で、入湯料は1人400円くらいしか入ってきませんので、せいぜい数十人しか入りませんのでやればやるほど赤字というか、そういった状況ですのでもっと経営を安定させるために営業日を削減したいということの計画です。是非とも皆さまからも中里温泉を利用いただきまして、経営改善に少しでもつながるようご協力をお願いしたいと思います。

○川原委員

はい、分かりました。

○会長

他にございますでしょうか。1つ私の方からよろしいですか。太田町、信号機の無い道路がいっぱいあると思うんですけれども、一時停止の所で止まらない場合が結構あるというのがいろんな機関からのお話であったんですけれども、これから高齢者の人が増えるからというわけではないんですけれどもやはり標識がよく認識できなかったりとか止まらなければ駄目だというような感覚が少し薄れてきたりとかで、朝晩とか見ていると結構止まらないことが多いということで、秋田県の高齢化が高いのでそういうふうな場合が増えてきたときに一時停止の所で止まるんだということが認識しやすいような何かがないかなということを、大仙の中でも太田はそういう部分が多いので地域協議会の皆さんからも、今ではないんですけれども継続的に何か意見がありましたらその都度話を出していただければありがたいと思います。そういう事故もたまにあるんですけれども、今後ちょっと増えるんじゃないかなという予想ですので。都会の方とか雪の降らない所ですと凸凹が付いていたりして、行けばデコデコとって止まるのが分かるような、そういうのがあったりとか、高速道路とか国道とかでもラインのところにタイヤの跡みたいな型を付けて少しずればザザッと音がするような、ああいった細工をしたりする場所があると思うんですけれども、この場合は雪が降るので冬の除雪のときに削られてしまうということもあっ

たりすると思うので、そういう地域性も考えてどういうふうな方法があるかなというような。高齢者の場合、色とかそういうのがちょっと見づらくなったりとか、例えば赤い標識でも赤と見えない場合もありますし、視界が普通だったらパッと見えるんですけども、このくらいしか実際は見えていないとか、そういうのもありますので、そういうところもちょっと特性を考えながら何かいいアイデアとかあれば、そういう然るべき所に挙げた意見を持って行きたいと思しますので、よろしくをお願いします。

○水谷委員

この前、島根県に行ったらとんでもないものを見ました。絶対スピードを出せないと思うんですよ。それって考えられないことになっていました。道路に標識というか、ドラム缶みたいな標識がありますよね、ドンドンと高速の下りる辺りに。ああいうのが真っ直ぐの直線の右左に置いてあるんですよ。だから直線で絶対走れないの。ジグザグでないと行けないの、スピードを出したくても出せないのよ。それを取るとどうなるかと言うと、真っ直ぐな直線だからいくらでもスピードを出せるのよ。これ考えたなと思った。必ずそれにぶつかるから。だからS字に走らないと駄目なんですよ。わざと置いている。これだったら絶対スピードは出せないなと。対向車線もあるけれども、そっち側もそうなっているんですよ。そっちもS字型でないと走れないという。ただ、さっき言ったようにこっちは雪が降るから冬に置かれたら大変だなと思うけれども、あっちは雪が降らないからやったんでしょうけれども、あれは夏場だったら絶対有効だな。意識的に置いているんだもの、規則正しくS型に。

○小柳真理子委員

丁字路とか交差点もなんですけども、実は私よく見るのがマックスバリュに入る所の入口なんですけれども、あそこ幼稚園側の方から来る人が入るときに早めに切っちゃって、あそこの縁石に上がるというのがあるんですよ。たまたま私ガソリンスタンドにいるのであれなんですけれども。まさかあれを外すわけにもいかない。縁石1個無かったんです、何回も引っかかるから縁石1個無かったんですけども、新しくして縁石の色も白くしたんですけども、遠目には見えるんですけどもやっぱり車で来ると見えにくいのか分からないけれども、早くお店に入りたい気持ちなのか早く切っちゃって、車幅灯と言うんですか、黄色いあれも立っているんですけどもガンとって、この前は走行不能になって車載で行った車もありました。

○倉田委員

こういうことを話してもらえば、私明日明後日大空大仙の事務局にこういう話し合いに行くんですけども、やっぱり少子高齢化でいけば町みんながそうやって気遣って交差点を見てますよという、そういう町ですよと若いお母さんたちにお話できるので、やっぱり今みたいな、こんなにスピード出していて忙しいんだけど車には気を付けてほしいなど話し合っている町みたいだよみたいなことをアピールできれば、よその町から直接保

育園に入って来られるご父兄もおられるので、やっぱり今みたいに情報として無い人もいるので、多分暗いときとか朝早いときしか走っていない人もいますので、あそこら辺はただただ自分のことしか考えていないかも知れないので、園長たちにも話してみます。

○小柳真理子委員

駐車場の広さと間口の、入口が違うので、木とかあれば絶対そこは通らないんですけども、何も無くて縁石だけドンとあるので結構引っかかるんです。

○倉田委員

確かに危ない所ですよ、冬場は滑るし。

○支所長

縁石を取ることは可能です、いくらでも。ただ、歩道と車道との縁石なので、逆に言えば縁石を取ることによって歩道が、歩くところが多くなるという面もあるから、歩行者を優先するかぶつかるのを回避するかという。

○倉田委員

一番子どもが通る道ですよ、学校の通りだし。

○支所長

だから、縁石があった方が歩行者にとっては安心なことだろうから。

○倉田委員

縁石がありますよということを何かの集まりのときに話してもらおうようにしてみます。

○支所長

目印が足りないとすれば縁石を取り換えるということも検討できるかも知れません。

○水谷委員

いずれにしてもまず今当面やれることというのは、そのものを直したり新しく付けたり足したりするというのが、現地調査したりいろんなことがあると思いますから、やれる方法というのは。この前も町内で死亡事故が起きていますし、そういうのも踏まえて広報だとかそういうのでお知らせして、とにかく止まれという所は止まらないと駄目だということを強力に、駐在さんとも相談しながらいいと思いますから。その上でやっぱり危ない所があったらみんな、やっぱりやらなければならないことはやって、その上で事故が起きるのは自分のせいと言われるのは困るから、相手もあることだし、注意する方法を考えた方がいかがでしょうか。

○支所長

そういった不都合なところを教えてもらえれば改善できるところは改善するようにしますので、何とか機会があったら教えてください。あとさっき会長さんも言っていたけれども、止まれの標識って役所で付けれるようなものではなくて、公安委員会の方で設置、義務ということなので、ただどうしても、あるけれども止まらないで行くというのは別の話だけれども、無くて困るといふ所は市への要望として、そういったところは教えてもらうようにお願いします。

○会長

さっき認知症ってあったじゃないですか。最近免許の返納とかもあるんですけども、誤解してもらいたくないんですけども、認知症の疾患の中にルールを守らなくなるという、そういう疾患があるんですよ。それはもう本人が悪いというわけではなくて、種類の中にそういう疾患があつてルールを一切無視するというふうに変わっていくというのがあります。だからと言って普段生活できないかと言えば別にそういうことではないので、すぐ病気で寝込むなんていうのではなくて普通に生活できるんですけども、ただそういうふうなこともあるので、さっき水谷委員から紹介された強制的に行けなくなるというふうな、そういうふうな手段も必要になってくるのではないかなというふうな、私たちの業界の中では。今までですと話してもらえば理解していただける、認識できるというようなことがあるんですけども、認識できないという場合もあるので、そういうふうな人が認識できるような方法も考えていくように。多分日本もだんだんそんなふうになるんじゃないかなと思うんですけども。今小柳委員がおっしゃられたように、その都度そういう特定の部分のことで皆さまざまから、いろんな地域のことで出していただければ1年でいろんな箇所が改善できるかも知れませんが、お願いしていきたいと思います。

他によろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

それでは、本日の地域協議会はこれもちまして閉会いたします。長時間にわたりどうもありがとうございました。

(午前11時54分 閉会)

太田地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

小 柳 真理子

高 橋 睦 子
